

平成 29 年度 第 4 回岡山県文化振興審議会【要旨】

日時：平成 30 年 1 月 31 日（水）

10 時～11 時 30 分

場所：ルネスホール ワークルーム

1 開会

環境文化部長：あいさつ

2 議題

(1)おかやま文化振興ビジョン（2018～2027）の策定について

事務局：「パブコメ結果」「最終案」について資料に基づいて説明

委員：

- ・ビジョンはよくまとまっているので修正はない。
- ・東京オリンピック・パラリンピック開催にむけて、オープニングのデモンストラーションなどに岡山の文化を取り入れる提案をする働きかけや、その期間中に県の文化的な事業に冠付で応援するなどの具体的なプランはあるか。

事務局

- ・今年度 7 月に、文化芸術アソシエイツを文化連盟内に設置した。
- ・「beyond2020 プログラム」の認定組織として、岡山県文化連盟が認められており、現在、その周知と認定の作業を行っている。
- ・具体的な、オリパラの開会式閉会式への動きはない。

委員：

- ・ビジョンの具体的施策の施策体系の 3 つ目の項目にある、多様な文化プログラムの展開に関して、これまで国文祭は、一般と障害者部門を分けていたが、去年から障害のあるなしにかかわらず全部一括りの国文祭として盛り上げている。元々あった NPO 等とネットワークを活かしている。
- ・県文祭を、障害者、高齢者、その他色々な団体を一括りにしてみせることができれば、多様性のある岡山の文化を伝えることができ、それが行われれば、beyond2020 の前に先駆的にやっているという発信となる。県文祭と beyond2020 を繋げる構想はあるか。

事務局 :

- ・障害がある方だけでなく、芸術を教育されていない方が表現する芸術「アールブリュット」が注目されており、障害者だけを取りあげるのは難しい。
- ・県民文化祭にある事業について、beyond マークの使用申請があり今年度は多くの認証をした。来年度以降は、その beyond の認証に加え、障害者アートや高齢者活動等をどのように県文祭として見せていくかを課題としており、事務局である文化連盟と検討していきたい。

委員 :

- ・岡山文化芸術アソシエイツは、もっと文化連盟の活動を活用してはどうか。
- ・障害者の文化活動については、民間の動きとネットワークを組んでしてはどうか。
- ・今後の課題として、日銀の経済統計の短観のような成果指標や、文化に興味のある 100 人にイベントの感想を聞くアンケートのようなものがあれば客観性があり、かつ、実感に近い状況把握ができるのではないかと。

委員 :

- ・岡山文化芸術アソシエイツに対する期待は高いが、それがどこまで浸透していくのかがこれからの課題だ。
- ・岡山県と岡山県文化連盟はネットワークを組んでいるような関係であるが、県にはリーダーシップを発揮してほしいことはある。
- ・例えば、オリンピックで岡山県は何をするのかと聞かれ、多くの意見が持ち上がったときはそれを整理する役割が県には求められる。岡山県の特徴ある文化として何を出していくのかを早めに準備をしていただきたい。

委員 :

- ・オリンピック・パラリンピックは大事な契機だ。現在は、スポーツ庁、観光庁が主導する文化施策に文化が参加する形になっている。観光庁やスポーツ庁との連携は大事だが、やはり文化は文化でのしっかりした骨太のビジョンをもつことが必要だ。
- ・ロゴマークを使うというのはスポーツ庁と文化庁が作ったマニュアルによるもの。県としては、ロゴマークを付けるような事業の展開だけでなく、なにを重視するのかということ。
- ・県民文化祭には県が独自にやる文化の連携と新旧の連携と更に発展を図るという大きな目的がある。県民文化祭をより充実して、やはりこれだけとは

というような本気度が測れるようなやり方が将来的にも続いて欲しい。

- ・連携事業、協賛事業だけではなく、県や文化連盟やアソシエイツが主体性のある中核になる事業を考えなければいけないのではないか。「文化」が主体という姿勢を確認し協力できるところは力を出し合うという方向が望ましい。

委員：

- ・大賛成だ。私達が主体性を持って参画できるかどうかが大変だ。
- ・一つは県独自で主体性を持ってやること、それからもう一つは、我々の主体性を持って、国のスキームに参画できるように制度設計を変えるよう、県から働きかけをして頂きたい。

議長：

「おかやま文化振興ビジョン（2018～2027）」案を審議会の答申とする。

(2)・おかやま文化振興ビジョンの進捗状況について

事務局：資料に基づいて説明

委員：

- ・継続的に十数年、笠岡諸島での文化事業に関わっており、文化は一方向的に地域の人が享受するだけでは根付かないということや、地域を支えておられる方々の気骨などを感じている。
- ・地域で制作した作品は、それを守るだけでなく、新しい人を呼び込み、対話ができるようなシステムやスキームができたらいいい。
- ・今年、岡山市が「国吉」にまつわる演劇をしたが、それに関わっている学生たちが非常に熱心だった。それは以前、県立美術館で対話型の観賞教育をした成果だと感じている。当時中学生だった子供達が、大学生や社会人になって、また再び文化に関わることに成功したのではないか。時間はかかるが、美術館で次世代を育てていくことは大事だ。

委員：

- ・県立美術館の魅力アップ事業が良い方向にいくよう願っている。まずは常設展の魅力強化に鍵があるのではないか。特別展ばかり目がいってしまうが、

岡山の美術では充実した展示やあまり有名でない作家の掘り起こしがされており、「質」の部分できちんと評価していかなければと思う。また、それらを応援できる鑑賞者を育てることも必要だ。

- キャンパスメンバーズ制度で少しずつだが地域の美術館に行く学生が増えたが、分厚い層として育ってはいない。一部の学生たちが今まで参加してこなかった美術系のイベントや音楽系のイベントに少しずつだが主催者側としてかかわっていくことで、身近に文化芸術を感じられるという機会は作っている。
- 県立美術館の魅力アップ事業のような若い世代をお客様としてだけでなく積極的に関わっていけるような制度やシステムを盛り込んでいったらどうか。

3 その他 なし

4 閉 会